

2. 火山の概況 (平成 15 年 5 月 29 日 ~ 平成 15 年 6 月 4 日)

十勝岳・浅間山・諏訪之瀬島では微動があった。三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の温度に上昇傾向がみられた。

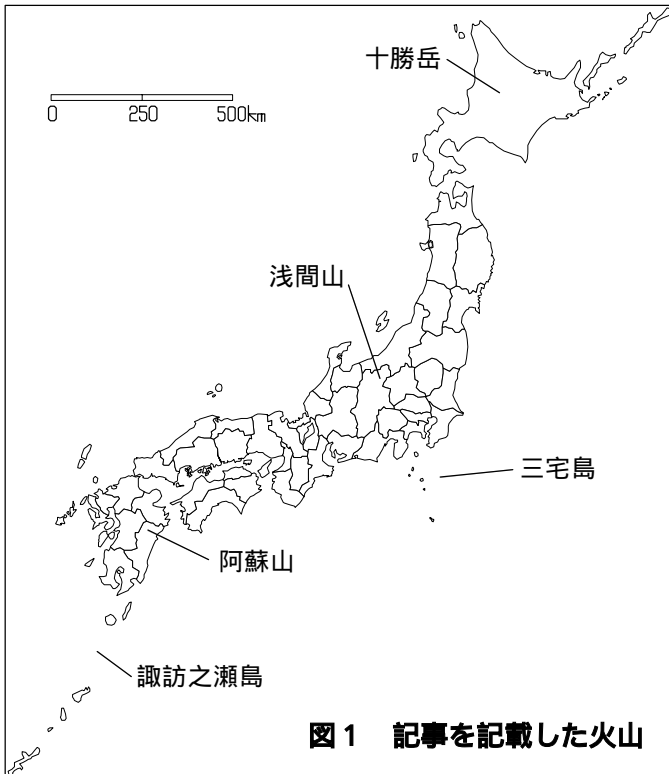


図1 記事を記載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	十勝岳	浅間山	御嶽山	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
23	5/29- 6/ 4								
22	5/22- 5/28								
21	5/15- 5/21								
20	5/ 8- 5/14								
19	5/ 1- 5/ 7								

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

十勝岳 [微動]

6月1日21時49分頃から、継続時間が約4分間の微動(最大振幅0.09 μ m(マイクロメートル))が観測された(微動の発生は5月24日以来)。前回の微動と比較して、振幅、継続時間ともに同程度であった。

なお、微動の発生前後に地震の増加はなかった。また、微動発生時の噴煙の状況は雲のため不明だったが、その後の観測により火口周辺に異常は認められなかった。

浅間山 [熱・微動]

期間中、振幅の小さい微動が10回発生した。このうち5回の微動は、2月6日以降のごく小規模な噴火に伴い発生した微動に類似していたが、火山灰を含む噴煙の噴出は確認されなかった。また、いずれの微動の発生前後でも、噴煙の状況、地殻変動等その他の観測データに変化はなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上400m(5月29日)であった。

地震回数は、1日当たり13~33回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象が引き続き観測された。

GPSによる地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [火山ガス・熱・噴煙・地震]

6月3日に気象庁が行った火山ガス観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量約5,000~6,000トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図2)。

また、同時に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測¹⁾では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南東へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温

度は250であった(前回(5月27日)150以上)。

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上1,000m(6月3日)であった(前期間1,000m)。

振幅の小さいやや低周波の地震が、5月30日から6月1日にかけてやや多い状態となり、1日当たり40回前後発生したが、噴煙の状況等その他の観測データに変化はなかった。期間中、規模の大きな低周波地震は発生しなかった。

GPSによる地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

1) 東京消防庁の協力による

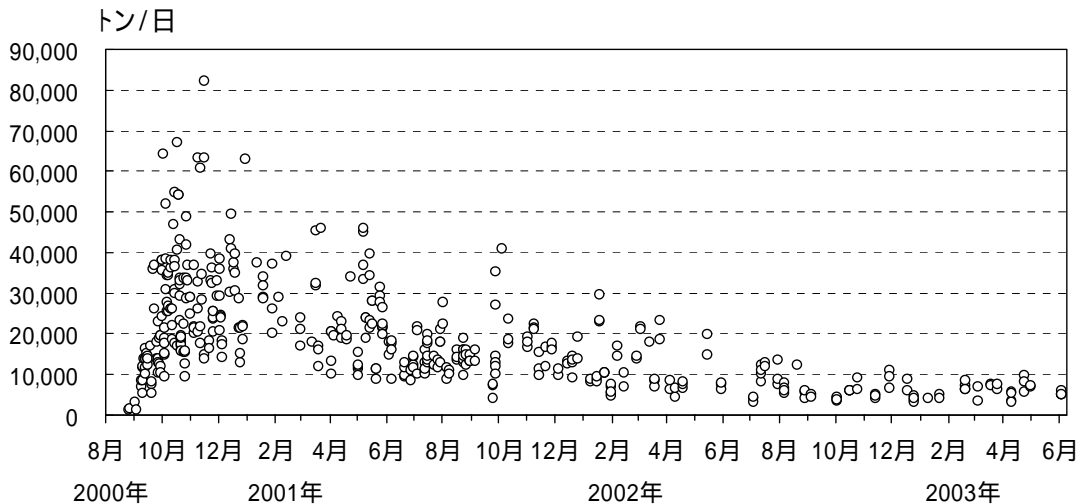


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日 ~ 2003年6月3日)

阿蘇山 [熱]

浅部の熱的な活動がより高くなる傾向がみられる。

6月3日に実施した中岳第一火口の観測により、火口内の湯だまり¹⁾の減少が続き、湯量が9割になったことを確認した(中岳第一火口内は、1995年3月の最後の噴火の後、同年7月以降は湯だまり量10割(全面湯だまり)が継続していた)。湯だまりの温度上昇も続き、赤外放射温度計による観測では74であった(前回観測時(5月23日)70)。また、前回観測時に引き続き湯だまりの中央部付近に噴湯現象が確認された。赤熱が続いている南側火口壁の最高温度も、525(前回観測時506)と高い状態で推移している。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上300m(6月3日)で大きな変化はなかった(前期間500m)。

孤立型微動及び地震の発生回数は少ない状態が続いた(以上図3)。

1) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50~60の緑色のお湯が溜まっている(湯だまり)。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起こり始めることが知られている。

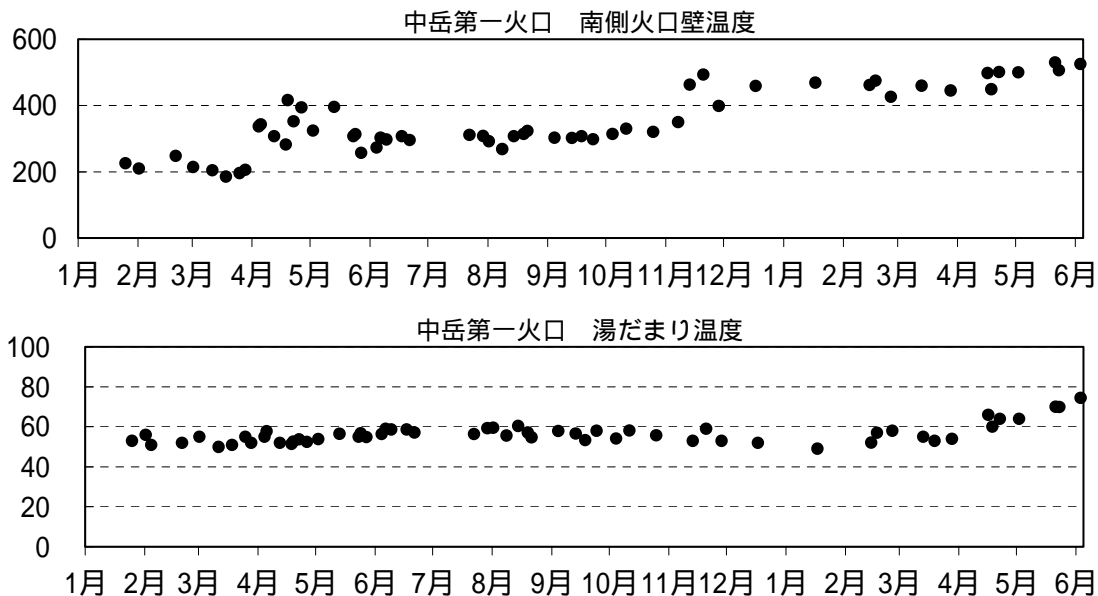


図3 阿蘇山 中岳第一火口の南側火口壁及び湯だまり温度 (2002年1月 ~ 2003年6月)

1995年3月の噴火以降、中岳第一火口内は湯だまり量10割(全面湯だまり)が継続し、湯だまりの表面温度は50~60で推移してきた。しかし、1998年頃より火口壁温度の上昇が続き、今年の4月以降は湯だまりの表面温度も上昇傾向がみられ、浅部の熱的な活動が高まっている。

諏訪之瀬島 [微動]

今期間、爆発¹⁾はなかった(前期間もなし)。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約4km)では降灰は確認されなかった。

期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態で推移している。

1) 爆発：噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。気象庁では、噴火に伴い発生した地震及び空振の大きさなどをもとに、爆発的噴火であったかどうかを判断している。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第294号 (1日2回発表)	29日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第307号	4日 16:30	